

来」(195号の予定)は校正に移った。

教育と普及…小中学校教科の新指導要領で理科等の
取り上げ方の検討

新旧要領での取り上げ項目の変更につき、説
明があった。

電子情報…1998年12月の気象学会ホームページアク
セス状況 (37,228件)

その他…1999年の春季大会の運営

春季大会は分科会方式で運営されるため、特
にシンポジウムは開催せず、学会賞、藤原賞
受賞者による記念講演とこれに対する質疑に
より大会運営の充実化を図ることになったこ
とが、担当の関東地区連絡会で決ったことが
報告された。今後の大会運営の活性化につい
て、中期的観点から様々な方法を検討する必
要が指摘された。

3. 会員加入状況

新入会員16 (内、団体会員3) を承認、退会213名、
1月10日現在、会員数4,568名(内、通常会員4,034名)。

4. 1999年度秋季大会に対する本部交付金の増額依頼 (第5回常任理事会議事録参照)

当大会の開催担当である九州支部から寄せられた収
入が大幅に不足する見通しであるとの報告につき、庶
務担当理事から当支部に対し収支見通しの内訳等を照
会した結果、現状では、広告・協賛金等の応諾状況は

非常に厳しく、今後さらに働きかけると共に、経費の
削減にも努力するつもりであるが、状況は厳しいとの
感触であったことが報告された。

なお、本件に関連し、一層の経費切り詰めに努める
よう要請すると共に、近年大会予算が不足し本部より
補填する状態が続いていることに対応するため、大会
運営の収支を保つ仕組みを見直すなど、今後の方策に
ついての検討を次の理事会に諮ることになった。

5. 第30期評議員会の議題

3月25日に開催予定の評議員会で、評議員に問題提
起・提言を求める議題として、「一般市民・社会人への
気象学の啓蒙普及」と「初等中等教育における気象学
の位置づけ」を採り上げることになった。

6. 1999年度総会議案

学会運営等について、従来のように単年度の計画だ
けではなく、中長期見通しについても、理事会として
の考えを報告することが必要との意見があり、総合計
画担当理事を中心にその方向で検討することになっ
た。

7. その他

地球物理関連学会の会長懇談会

IUGGの2003年大会開催への取り組み、IUGGの国
内対応組織結成の検討などのため、標記の懇談会が2
月に開催予定であることが、理事長より報告された。



平成11年度日本生命財団研究助成応募要領

基本テーマ：人間活動と環境保全との調和に関する研
究—自然と人間の共生への新しい道を求めて—
助成対象研究：

1. 一般研究助成：人間活動と自然環境との関係（人
間と自然環境の共存）に関する研究。平成11年10
月から1年間、総額8千万円程度
2. 特別研究助成：里地・里山などの二次的自然環境
とその維持・保全に関する学際的共同研究、平成
11年10月から2年間、1件のみ、2千万円以内

応募申請書の請求：

所属機関（大学・学部等）の名称・送付先（大学
名等のあて名も記入）・役職・氏名を記入の上、郵

送用切手(用紙1部の場合は160円、2部は240円、
3部は270円：急ぎの場合は速達料として+270
円)を同封してご請求下さい。例年応募の多い大
学には一定数の申請書を送付しておりますので、
大学事務室にてご照会下さい。

応募・問い合わせ先（申請書の請求先）

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7

日本生命今橋ビル4F

日本生命財団研究助成部

TEL：06-6204-4012

FAX：06-6204-0120

応募締切：平成11年5月10日（月）消印有効